

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22 年 3 月 4 日

【評価実施概要】

事業所番号	4071101846		
法人名	有限会社 であい		
事業所名	グループホーム であいの郷		
所在地	福岡市南区長住6-7-29 〒811-1362 (電話) 092-512-2562		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成22年2月26日	評価確定日	平成22年4月12日

【情報提供票より】(平成 22 年 2 月 4 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	6人
職員数	9人	常勤	4人 非常勤 5人 常勤換算 6.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)		実費	円
敷金	有()円	無			
保証金の有無 (一時金を含む)	有(100,000円)	有の場合 償却の有無	有		
	無		無		
食材料費	朝食	300円	昼食	300円	
	夕食	400円	おやつ	100円	
	または1日あたり		円程度		

(4) 利用者の概要(2 月 4 日現在)

登録人数	5名	男性	0名	女性	5名
要介護1	0名	要介護2		2名	
要介護3	1名	要介護4		1名	
要介護5	1名				
要支援1	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 87.8歳	最低	78歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・かめい内科 ・かば歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

介護事業を運営する代表が、自宅生活が困難になった利用者らにむけて民家を改修し5年前に開設したホームである。利用者5名に対し職員が3、4名という配置は、利用者や家族にとっての大きな安心に繋がっている。利用者の殆どが、同法人の通所や訪問からの継続的な利用であり、利用者、職員、家族ともに馴染みの関係が継続している。加えて本年度は、個別支援や記録の充実に力を入れている。職員各々の視点が活かされた書面は、利用者の思いや意外な一面等、密なかかわりがあったことを見出されたものであることが感じられる内容である。利用者への支援や家族への報告、さらには職員全体のモチベーションにも反映され、職員各々が自分の目標をもって支援に臨む姿勢が見受けられた。地域の介護事業者や行政と連携した取組みも活発になされており、小さな規模ながら、今後の展開が「大いに」期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の結果は、運営推進会議時に報告を行い、職員へは勉強会時に改善についての協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程において、記録や職員配置の充実等の成果がみられた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の受審にあたり、職員の意見をまとめながら自己評価を実施し、ホームの状況や課題を把握し、改善に向けて協議を行うなど、全職員がかかわった取組みがみられた。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	利用者家族、民生委員、町内会長、地域包括支援センター職員の参加のもと、2ヶ月に1度開催している。会議では、ホームの概要や利用者の状況、ホーム行事の説明、外部評価の結果報告、改善案の協議、公民館活動や地域行事の報告、災害時の協力体制等が協議され、サービスの質の向上や運営に活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	契約時に窓口や苦情箱の設置について説明を行うほか、面会等を利用して直接話を聞き、表出されにくい苦情や意向について汲み取るように工夫している。意見や苦情の申し出に対しては、内容に応じてその場での回答や、職員会議で検討後、回答するなどの取組みがある。本年度は、運営推進会議の中で、インフルエンザ対策についての意見や質問が出された。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の夏祭りやいきいきサロン等へ参加している。ホーム行事や家族会、運営推進会議については、地域住民に周知し参加を呼びかけている。住宅地の中の民家改修型ホームの特徴を活かし、梅干の差し入れや散歩時の挨拶等、日常的に自然な形での近所づきあいがなされている。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	開設にあたり、職員全員で話し合い、ホーム独自の 理念を作り上げている。「その人らしい生活を大切に、 やさしい介護を目指します」を理念とし、地域とのかか わりを意識しながら、支援にあたっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示し、毎日自然と目にしながら、職員各自 のそれぞれの目標や支援を通じて、日々の実践に努 めている。ホームの理念を具体的にどう実施してい かについて、職員会議で話し合い、課題・目標を明確 にし実践に取り組んでいる。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	地域の夏祭りやいきいきサロン等へ参加している。 ホーム行事や家族会、運営推進会議については、地 域住民に周知し参加を呼びかけている。住宅地の中 の民家改修型ホームの特徴を活かし、梅干の差し入 れや散歩時の挨拶等、日常的に自然な形で近所づ きあいがなされている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の結果は、運営推進会議時に報告を行い、職 員へは勉強会時に改善についての協議を行うなど、 質の向上への取組みがある。この過程において、記 録や職員配置の充実等の成果がみられた。今回の 受審にあたり、職員の意見をまとめながら自己評価を 実施し、ホームの状況や課題を把握し、改善に向け て協議を行うなどの取組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者を招いて2ヶ月毎に開催している。会議では、ホームの概要や利用者の状況、ホーム行事の説明、外部評価の結果報告、改善案の協議、公民館活動や地域行事の報告、災害時の協力体制等が協議され、サービスの質の向上や運営に活かされている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議にいきいきセンター職員の参加があり、情報交換や質疑応答が行われている。日常的にも、支援の相談を通じて密に連携をとっている。また、市が主催する研修等への参加や、生活保護課と協力しての利用者支援等、連携する機会がみられた。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修への参加及び内部研修を開催し、職員全体で制度について学ぶ取組みがある。成年後見制度や日常生活自立支援事業に関する概要や利用方法などについてのパンフレットを用意し、契約時や随時の情報提供を実施している。		今後、「キーパーソン不在」の利用者への支援が増えることが予想されます。金銭管理や医療に関する決定等、権利を擁護する制度の整備と普及が望まれます。運営推進会議や事業者連絡会等において、制度についての情報提供や協議の機会を持ち、高齢者の権利等を守る制度の普及活動等への取組みを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時に利用者の心身状況や金銭管理の記録の提示や、電話連絡などを行っている。また、毎月の行事等を掲載した「であいの郷便り」と、利用者毎の心身状況やトピックスを綴った「月例報告書」を作成し、利用者の暮らしぶりや様子を伝えるなどの取組みがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に窓口や苦情箱の設置について説明を行うほか、面会等を利用して直接話を聞き、表出されにくい苦情や意向について汲み取るように工夫している。意見や苦情の申し出に対しては、内容に応じてその場での回答や、職員会議で検討後、回答するなどの取組みがある。本年度は、運営推進会議の中で、インフルエンザ対策についての意見や質問が出された。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年は管理者交代以外は離職の事例がない。日常的に法人職員の往来もあり、行事や緊急時、職員の病欠時の連休の場合でも、円滑に標準的なサービスを提供できる体制にある。新しい職員が入職した際は、先輩職員がフォローしながら利用者とのコミュニケーションがとれるように適切に支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	原則的にヘルパー2級資格取得者を対象とし、年齢や性別、経験の有無等の制限は設けず、理念への共感や体力的、時間的な状況、コミュニケーション能力等を考慮しながら法人で採用し、ホームに配置している。就職後は、職員ごとに個人目標を設定し、定期的な面談の中で、支援の充実や達成状況を確認し、より一層のモチベーションの向上を目指している。職員配置や職場での人間関係も含めて働きやすい環境づくりへの配慮がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人の研修計画に人権教育を位置付け、毎年実施している。高齢者にまつわる問題から、幅広いテーマを取り上げ、様々な人権に関する教育や啓発活動等への取り組みがある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で研修計画を作成し、定期的に勉強会を開催している。外部研修について掲示や回覧、会議時での情報提供を行い、職員の参加を募ったり、管理者が適切に割り振ったりするなど、外部研修への均等な参加の機会を確保している。研修受講後はレポート作成と受講報告会を行い、新しい知識や情報を共有する取り組みがある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設時より、地域密着型サービス事業者連絡会(ふれあい会)に所属し、職員が交代で参加し、勉強会や相互訪問等の交流を通じて、モチベーションをあげる機会として活用している。同会では、各事業所が抱える課題の協議や情報交換等を行いながら、運営やサービスの質の向上にともに取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の殆どが、同法人の事業所からの継続利用であり、顔馴染みの関係にある。事情により緊急性が高まった場合や入居を拒む場合でも、見学や利用体験を勧めながら、無理強いすることなく、本人が納得した上で利用できるように支援している。人数が少ない分、他の利用者との関係にも配慮し、徐々に馴染んでいけるように支援している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に人生の先輩として尊敬の念を持って接し、利用者もまた、近隣住民への挨拶など、年長者としての自覚を持ち、共に支えあいながら生活している様子が見受けられた。特に、重度化への支援の際に、職員にかけられた感謝の言葉や、利用者同士との最期の会話等、心温まるエピソードが聞かれた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約時に本人や家族からの聞き取りにより、概要を記録し、会議等での情報交換等により、職員全員で利用者の意向を把握している。利用後は、時系列の支援内容は日誌に記録し、日常の会話や様々な場面を通じて把握した本人の思いや出来事をボックスとして記録化している。生き生きとした利用者の様子が伺える書面となっていた。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の好きな事や意向を汲み取り、家族の希望や主治医の意見を確認し、カンファレンスで意見を出し合い、介護計画書及び細かい手順書を作成している。この過程を経て、ある職員の意見として、摂食障害ぎみの利用者に、あえて「食事を意識しない」支援をしたところ、正常な摂食に戻った等の事例がみられた。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	毎月のミーティングの中でモニタリングを行い、利用 者の生活や健康に関する情報、介護計画及び支援 手順を確認している。3ヵ月毎にサービス担当者会議 を開催し、評価・見直しを行い、状態が変化した場合 も同様の過程を経て、現状に即した新たな介護計画 を作成している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	入院については、医療機関と連携をとり、早期退院 に向けて働きかけを行い、長期が予想される場合で も、特に待機期限を設けず、利用者や家族の意向に 沿う形で支援している。また、デイサービスや地域の いきいきサロンの利用等、本人、家族の意向に沿って 可能な限り柔軟に支援している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時に医療・受診等について説明し、利用者・家 族が入居後の主治医を選択している。原則的に、受 診は家族支援とし、協力医及び歯科医による毎週の 往診や定期的な口腔ケアがなされている。また、精神 科等の各専門医療機関とも連携をとりながら適切に 支援している。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時、重度化等への対応指針を説明し、重度化 に対する意向について伺い、書面に記録している。利 用者本人の意向についても、思いを汲み取り記録し ている。実際の支援手順として、状況の変化に伴い、 全関係者を交えてその都度協議し、方針やケアの手 順を共有するなどの取組みがある。この過程を経て、 昨年は利用者1名への支援がみられた。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	職員への基本的な接遇や言葉かけ、記録における 表現の指導等は、入社時や研修時、及び随時行っ ている。個人情報となる記録等についても、適切に管理 している。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	5名の利用者のペースや個性、その時々 の状況等に応じて支援している。少人数 であるがゆえの人間関係の難しさもあ り、昨年度からは、職員配置を増やし、 個別支援の充実に努めている。この結 果、毎朝、利用者一人ひとりの希望を 聞き、外出や趣味活動等の個別対応が 実現した。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利 用者と職員と一緒に準備や食事、片付 けをしている	地域商店での食材調達、調理準備や後 片付け等、可能な限り職員と利用者が 協力しながら行っている。調査当日は 利用者、職員が1つのテーブルを囲み、 たこ焼きを焼きながら、オリンピックの 日本女子フィギュアスケートの熱演を 一体となって応援していた。まさに「 お茶の間」の光景であり、少人数なら ではの良さを改めて感じさせられた。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めて しまわずに、一人ひとりの希望やタイ ミングに合わせて、入浴を楽しめるよ うに支援している	入浴日は特に設けていない。毎日の入 浴も可能であるが、実際は週2～3回 の利用が多い。あまり入浴を好まれ ない方には、タイミングを見計らっ ての声かけやシャワー浴、足浴、清 拭等を行い、定期的に清潔保持の機 会を確保している。また、柚湯や菖 蒲湯等、季節を意識して入浴を楽し めるように支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	朝の散歩や外出、テレビ鑑賞、洗濯物たたみ等、利 用者の好きなことやできることの中で、自然に役割や 楽しみ、気分転換ができるように支援している。デイ サービスや地域のいきいきサロンへの参加等、ホーム 以外で過す支援も見られた。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	花見や行楽など、定期的に計画立てての外出のほ かに、日常的な散歩や買い物兼ねたドライブ等、利 用者の希望に沿って個別に支援している。特に、年1 回の温泉旅行は、利用者、家族、職員が共に旅行す ることで、それぞれの生きがいを高め、交流を深める 機会として、毎年取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	施錠は夜間のみであり、日中は開錠されている。施 錠時間は日没等を考慮して季節ごとに調整している。 利用者は自由に出入りが可能で、その都度、職員が 声かけや見守り、一緒に外出するなど、利用者の安 全と自由な暮らしを支える取り組みがある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	毎年消防署の指導による避難訓練の実施と、地震 等の災害時の誘導方法、消火器の使い方等を確認 する自主訓練を実施している。訓練については、運営 推進会議にて適宜報告し、民生委員等を交えて、非 常災害時の応援要請や公民館や避難場所への移動 手段の確認等、協力体制への取り組みが見られた。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	栄養バランス、カロリー等に配慮しながら、献立し、 ホームで調理して提供している。キザミやトロミ、代替 食品等、利用者の心身状況に応じた食事形態にも対 応できるように支援している。また、食事摂取量、水分 摂取回数、体重等を記録し、定期的に主治医や協力 医に情報提供し、助言や指導を受けながら適切に支 援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	民家改造型ホームであり、建物自体が地域の一般住 宅に溶け込んでいる。庭木や家庭菜園等を作り、玄 関回りのスロープやステップで、安全に屋外で自然の空気 を楽しめるように工夫している。リビングには大型テレビ、 ソファやホットカーペット等がおかれ、ゆっくりくつろげるよ うに配置され、「お茶の間」という言葉がぴったりの空 間となっていた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	部屋にはベッドが備え付けてあり、利用者、家族が 相談し、衣類や仏壇、寝具、調度品等を持参してい る。家具の配置等も利用者の心身状況や採光、動線 等を考慮しながら、安全かつ快適に過ごせるように工 夫されていた。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号